

建長僧堂 師家法話 花無心招蝶 酒井泰玄

華 無心招蝶

ばんぶん 詞 編

花は無心にして蝶を招く。良寛さまの詩の一節です。

花は無心にして 蝶を招き
花開く時 蝶来り
蝶来る時 花開く
吾も亦た 人を知らず
人も亦た 吾を知らず
知らずして 帝則に従ふ

帝則とは、自然の摂理。と云ふ程の意味です。誰も何も云はないけれど、春になれば、花は黙って咲き鳥はさえずる。夏になれば、由比ヶ浜は半の子を洗ふ様な女でにぎわい。秋には、見事な紅葉の源氏山で仲秋の名月をめぐる。冬ともなれば、万葉の昔から富士の高嶺に雪は降りける。

建長寺の日月は、十年一日の如くであります。一日、十五日は天地の万物に感謝を致し、国家国民の安泰と世界平和を祈る。二・七・五・十の付く日には、宗旨の話を聴いたり、畑を耕したり、労働する。一・六・三・八の付く日には、托鉢(乞食の行)をしたり、日供合米(仏様のお供へ)を頂きに近郷近在を廻る。四と九の付く日は、頭を剃り、洗濯をしたり、繕いをしたり、風呂を立、ゆつくり浸かる。こうして一年を四季のうつろひゆくま、に帝則に従って無心に暮らす。これがお釈迦様の法(おしえ)であり、法に適った生活と云ふ訳だ。

コロナ禍は、各人が己のこし方を振り返り自心をもつめる好い機縁となりました。「あたりまえ」の日常が「ありがたい」と素直に受け取り、禍を転じて福となしてまいりましょう。合掌

ほとけさまのせかい

家族の一人が心身をわづらいますと、家族の協力が大事になり、家族みんなの生活がかわってきます。
お仏壇は「住まい」の魂であります。家族の精神的な中心でもあります。
お仏壇に手を合わせる時、ご本尊も、ご先祖さまも、お参りされるあなたに、手を合わせています。
お仏壇は、常にきれいにし。お水、ご飯、お花を献げましょう。朝夕のお参りには、灯明をともし、線香を上げ、合掌し拝礼します。
お仏壇には、ほとけさまの願いと、ご先祖さまの願いが宿っています。
お仏壇に手を合わせる時、ご本尊さまも、ご先祖さまも、お参りされるあなたに、手を合わせていらつしやいます。



右ほとけ、左われぞとあわす手のなかによかしき南無の一声
右手はお釈迦さま、左手は自分と想って合掌しましょう。お釈迦さまの教えと私たちの生き方が、一体になった瞬間です。キチンと正座し数珠を手にしてお参りしますと、心は安らかになるから不思議です。
仏さま、拝む姿が、仏さま
私はこの言葉が好きです。ほとけさまを拝む自分の姿も、ほとけさまなのです。自分の心にほとけさまが宿る時、きくと、自分のお顔も、ずっと、自分のお顔も、ずっと美しく見えてくるんですよ。
家族の一人だけがお参りするのではなく、家族の全員がお参りされるように、私は願っています。



和以爲貴 ◎和の心が基本

「和を以って貴しと爲す。忤うこと無きを宗と爲せ」
聖徳太子の「十七条憲法」の第一条に教え示された条文であり、わが国、最古の憲法です。
聖徳太子は「なごむ心を大切にしよう」ということを、社会生活において最も重要な徳目としました。「和以爲貴」とは、さからうことをしないという、社会集団の基本精神です。そして和を尊重するという意味です。
真の和とは、各々個性を發揮しつつ、お互いの存在を認め合い、お互いが信頼し、和合第一の精神で真実な人間性を尊重することでしょう。聖徳太子は、和をもってお互いが支え合い、主体性をもって「生かされている」ということを自覚することが大切であると説いています。

◎お茶でもどうぞ!

『五感の偈』

食事への感謝の気持ち



- 一つには功の多少を計り、彼の来処を量る
- 二つには己の行徳の、全文を付けて供に三す
- 三つには心を防ぎ、過食等を離るるを宗とす
- 四つには正に良業をこととするは形枯を瘳ぜんが爲なり
- 五つには道業を成ぜんが爲に、応に此の食を受くべし

五感の偈は、食前に唱えるお経で、食事への心構えを説いたものです。第一偈は「一食事をこつていただくまででこれだけ多くの人々の手を經たことを考えます」。第二偈は「一食事をいただくにふさわしい生活をしているかを考えます」。第三偈は「一食事に對し不満をもたず欲望を抑えます」。第四偈は「一食事を良業と考えていただきます」。第五偈は「修行して人格を完成させるために、この食事をいただきます」。五感の偈は、あらためて食の大切さを教えてくれます。

●絵で見る禅の修行生活 雲水日記 24

※雲水(うんすい) 修行僧のこと。行雲流水のように淡々として一処に止住せず、正師を求めて遍歴する意より。

集米

僧堂護持のために多数の篤信家が日供米というものを枡に蓄えて、月に一度寄進してくる。一、六、三、八の日、一軒ずつ、手練を頼りに合米袋へ集めてまわる集米が日課のひとつになっていく。激しい風雪に叩かれたり、飼犬の手の痛み挨拶を喰らいつつ、重い米袋の紐を首筋に食いこませて、京都市中はもちろん、大津、淀のあたりまで歩いてくる。そんな遠集のときは、朝、真つ暗なうちから出発だ。
趙州に僧が問うた、「犬ころに仏性がありませんか」、州答えて「無」。またたく犬という奴は、この見性入理の第一問となつて、古来より幾多の修行者の骨髄に噛みつき、英傑たち



恩林寺ホームページ

恩林寺に関する情報が満載です。動画や写真をはじめ、過去の行事や出来事、案内事項など常に新しい情報を発信して居ります。是非ご覧になってみてください。
URL <http://www.onrinji.net/>